

2013年度 修学院フォーラム いのち
生、老、病、死を考える
第1回

日本クリスチャン・アカデミー
関西セミナーハウス活動センター

iPS細胞の技術は、バラ色の未来だけをもたらしてくれるのか。死ぬ権利が認められたなら、わたしたちは本当に良き死を迎えることができるのか。生、老、病、死をめぐって今話題のテーマをともに考え、深めていきたい。

再生医療の生命倫理 —iPS細胞を中心として—

講師 位田 隆一（同志社大学大学院特別客員教授）

山中伸弥教授のノーベル賞受賞でiPS細胞を用いる再生医療の実現にさらに一歩進んだ。しかし、実際に患者さんを治療するまでには、なお様々な倫理問題が控えている。生命倫理のルールは、こうした医学の発展を社会が理解しサポートするための規範である。iPS細胞を中心とする再生医療にどのような倫理問題があり、それにどのように対処するのか、考えてみたい。

iPS細胞の前に研究が始まっていたヒト胚性幹細胞（ES細胞）は、人の身体のどの部分の細胞にも分化し無限に増殖する能力を持った細胞（多能性幹細胞）である。これを用いて目的の細胞を誘導し、さまざまな難病、例えば心筋梗塞、脊髄損傷、パーキンソン病等に新しい元気な細胞・組織を移植して、治療する。しかし、ES細胞は「人の生命の萌芽」である受精卵（胚）を破壊して取り出す（樹立）、という重大な倫理問題を抱えていた。ところがiPS細胞は、受精胚からではなく体細胞から多能性幹細胞を作るため、この問題を回避できた。

しかしiPS細胞は、その多能性ゆえに、精子や卵、脳細胞にも分化させることもできるが、そこまでも許すのか。また、導入する遺伝子の影響、無限の増殖によるがん化の可能性、体細胞の提供者のプライバシーなど、倫理問題がなくなったわけではない。

さらに、患者さんの治療までに、動物実験の上に、臨床研究で安全性と有効性が実証されねばならない。科学的に安全・有効でない治療を行うのは倫理的にも許されない。実際の治療では、必ずしも患者さん自身のiPS細胞でなく、iPS細胞のバンクから「製品」としての細胞を移植することが考えられているから、厳格な条件をクリアし質の保証された「製品」（細胞）としてのiPS細胞でなくてはならない。

最先端の医学研究とその成果の応用には、こうした科学のおよび倫理的検討の重要性と厳しさが不可欠である。

日時 2013年 5月11日（土） 13:30～17:30

場所 関西セミナーハウス ※会場への地図は裏面をご覧ください。

参加費 1,000円、学生500円（コーヒー込み）

*5月9日までに FAX(裏面)、電話、電子メール等でお申し込み下さい。



位田 隆一 IDA Ryuichi

同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科特別客員教授 京都大学名誉教授。
京都大学大学院法学研究科博士課程中退、京都大学助手、岡山大学助教授を経て、
1986年より京都大学教授、昨年4月より現職。フランス・パリ第2大学留学。ユ
ネスコ国際生命倫理委員会委員長、文部科学省科学官等を歴任。日本生命倫理学会
国際交流委員長、世界法学会理事長。共編著に『レクチャー生命倫理と法』（法律
文化社）、『倫理への問いと大学の使命』（京都大学学術出版会）など。専門は国
際生命倫理、国際法。

2013年度 修学院フォーラム

いのち — 生、老、病、死を考える

第2回 7月13日(土)

「ほんとうの生存の承認をもとめて」

講師 川口 有美子(日本ALS協会理事)

第3回 10月26日(土)

「死にゆく人格権 — 自宅で家族に看取られる死が理想なのか? 」

講師 福島 旭(関西学院中学部宗教主事)

社会 — エネルギーを考える

第1回 11月30日(土)

「チェルノブイリと福島から」(仮)

講師: 山崎 知行(和歌山県海南市医師)

第2回 2014年1月12日(日)~13日(月・祝)

「原子力発電の根本的問題と我々の選択」

「社会科学の視点から」(仮)

講師: 姜 尚中(東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授)

「聖書の視点から」(仮) 講師: 上山修平(日本キリスト教会横浜海岸教会牧師)

福祉 — 重荷を負う人と共に

第1回 9月7日(土)

「一人一人みんな違っていい—べてるの人たちから学んだ生きる力、暮らし方」

講師: 向谷地 生良(北海道医療大学看護福祉学部教授、社会福祉法人浦河べてるの家理事)

第2回 2014年2月22日(土)

「前例がなければつくればいい」 講師: 青野 浩美(声楽家)

【申込み・問合せ】

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー

関西セミナーハウス活動センター

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23

<http://www.academy-kansai.org>

電話 075-711-2117

FAX 075-701-5256

電子メール office@academy-kansai.org

所長代行 榎本 栄次

担当 都木かおり



* 地下鉄烏丸線松ヶ崎駅、叡山電鉄修学院駅までワゴン車で送迎いたします。定員がありますので、ご希望の方は予めお知らせ下さい。地下鉄の最寄駅は松ヶ崎駅ですが、北山駅のほうがタクシーを拾いやすいです。

2013年度 修学院フォーラム「いのち」第1回 参加申込書

(フリガナ)	
名前	所属
住所〒	
電話 ()	FAX ()
電子メール:	@
通信欄:	